

長期ビジョン

人口動態の変化や人々の価値観の多様化、テクノロジーの加速度的な進展など、変化が激しく、不確実性が高まっている時代の中、サステナブルな社会の実現に向けて様々な課題が顕在化しています。東京建物グループは、デベロッパーが果たす役割も大きく変わるべきだと考え、事業を通じて「社会課題の解決」と「企業としての成長」をより高い次元で両立することで、すべてのステークホルダーにとっての「いい会社」を目指します。

マテリアリティ(社会価値創出) ▶ P.45

特に注視する 外部環境

- 地政学リスク、自然災害リスクの増大
- 顧客の価値観・行動様式の多様化
- 金融政策正常化や物価動向を背景とした金利上昇
- 国内の総人口・生産年齢人口の減少化
- インフレの進行
- デジタル技術の進展やグローバル化の加速
- ESGに対する意識の高まり

中期経営計画

▶ P.30

2030年を見据えた
長期ビジョン

次世代
デベロッパーへ

様々な
社会課題の解決



着実な利益成長

2030年に目指す事業利益

1,200億円

マテリアリティ(価値創造基盤) ▶ P.45

※固定資産の機動的売却や海外事業における投資スキームの多様化への対応のため、中期経営計画(2025-2027年度)において事業利益の定義を変更
変更前: 事業利益=営業利益+持分法投資損益
変更後: 事業利益=営業利益+持分法投資損益等+固定資産売却損益(持分法投資損益等には、海外事業における受取配当金、受取利息および投資ピークルへの出資持分の売却損益を含む)